



# 各種視察や勉強会

夏～秋も、政務活動費を活用して視察や勉強会に臨みました。今回はどれも公費を使わず私費で学んでいます。いずれも議会での議論に活かしていきます。

## 未来の日本を垣間見る

### 行って来ました、大阪万博

区内に大使館のあるエジプトなどのパビリオンの訪問の他に、最新技術や近未来の日本社会への興味から、7/1(火)は会派のメンバーで万博へ。



都市で使うには大き過ぎる、空飛ぶクルマ

強い日差しにコンクリートの照り返し、レジオネラで中止となった噴水、工事の終わらないパビリオン、高すぎる昼食とおやつ、飛ばずに中止となった「空飛ぶクルマ」など、現在の社会問題を奇しくも再認識するひとときでもありました。



膨大な量の木材を使っており、サステナブルだったのかは疑問。

気候変動やパンデミック、人手不足、円安や物価高、日本の技術革新の遅れといった課題には引続き向き合っていくことが求められそうです。

ただ一方で日本館や会場の随所には、近世(近現代ではなく!)の日本にはサステナブルな社会のヒントがたくさんあるというメッセージも感じました。またここで見たICTやヘルスケアなどに関する様々な新しい技術も、多くの人々が恩恵にあずかれなければ意味がありません。どのようにルールを整備していくかは、行政や政治に関わる私たちの宿題になりそうです。



技術的にはLV.4の自動運転が可能でも、現行法では運転手が必要

## インクルーシブを考える

### 先進自治体・世田谷区を参考に

7/29(火)は世田谷区でインクルーシブ教育推進に尽力する名谷和子氏を招き、近隣区の立憲の仲間と勉強会。世田谷区以外にも様々な先進事例があることを学びました。

なお日本の「インクルーシブ教育システム」は、「障害者が障害に基づいて一般的な教育制度から排除されないこと」などを求める国連から是正勧告を受けており、「インクルーシブ教育」とは似て非なるモノだと批判を受けることも多くあるのが現状です。

障害者にやさしい街は、歳をとっても、ケガや病気で何かあった時にも、赤ちゃんを連れていても暮らしやすい街になるはずだと、1期目に聴覚障害の当事者と接する中で学びました。こちらも引き続き一歩ずつ取り組んでいきます。



## 改めて学ぶ、特別区の制度

### 意外と知られていない、23区の特別ルール

7/23(水)、東京都の特別区長会が主催する議員向けの勉強会へ参加しました。テーマは特別区制度。「地方自治に詳しい」ハズの大学教授でもTVで間違えるほどマニアックですが、区議としては重要な特別区の財源配分とその歴史について改めて学び直しました。

私たちの生活に最も身近な「基礎自治体」は一般的には市町村ですが、実は東京23区ではS27からH12の都区制度改革まで法的には区ではなく東京都が直接その役割を担っていました。その名残で、本来であれば基礎自治体である市町村の財源となる固定資産税、市町村民税法人分、法人事業税などは、東京23区では今でも東京都が44.9%(R5年度決算で1兆円!)を都税として留保し、残りの55.1%(約1.2兆円)を23区に分配。しかし何故この配分割合なのか、詳細は未だに区側に示されないまま。今でも東京都vs23区の財源争奪バトルは続いています。

## 第3回定例会 一般質問の要旨

一般質問については1面でお伝えした通り、2点の質問を行いました。会派の人数によって持ち時間は変わりますが、今回は答弁も含めて55分。質問内容は紙幅の関係で要点のみの掲載といたします。実際の質問や答弁の内容や様子は目黒区議会議事録、または目黒区議会中継(録画)をご覧ください。



橋本しょうへい 議員



男子ハンドボールの応援へ

1点目は手話を学ぶひとりの区民として。今年区の手話言語条例制定やデフリンピック開催など、聴覚障害や手話への理解促進には大きな機会となっているが、単なる一過性のイベントに終わらせないで欲しい。手話や聴覚障害に対して新たに興味を持つ方々を増やすために、デフリンピックに向けてどのように機運醸成や周知を図っていくか。

また来年頃までは手話への関心が高まると予想されるが、この時機に手話通訳養成講座の申込み段階でどう工夫するか。そして共生社会の実現に向け、この機会をどう活かすか。

そして目黒区手話言語条例では共生社会の実現が、さらに目黒区基本構想では多様性の尊重が謳われている。デフリンピック開催との相乗効果を持続させ、目黒区障害者計画の基本理念でもある「誰もが自分らしく輝きながら共に暮らせる社会」を実現させるためにも、当事者との交流の機会についてはどのように考えているか。



字幕の精度はさておき、日本手話・国際手話通訳と日本語・英語字幕での情報保障もセットだった。



学芸大学駅近くの鷹番住区センターはR6年度の利用率が73.15%で、区内ダントツの1位だった。

2点目としては小学校の建替えに際し、住区センターを一体化していく場合、防災やみどりの形成などの

視点からは不燃化や緑被率向上、空地の確保に向けて、跡地の活用として公園という選択肢もあり得ると考えられる。特に目黒区は23区の中でも、区民一人当たりの公園面積が中野区に次いで狭い。区はどのように認識しているか。



最寄りの学芸大学駅徒歩23分の油面は利用率32.88%と低迷。

また公園以外にも様々な行政課題がある。前例に捉われることなく売却や貸付けなども含めて幅広い視点を持ってベストな形を探して欲しいと願っているが、駅からの距離や用途地域といった利点や制限からはどのような選択肢があるか、改めて示されたい。

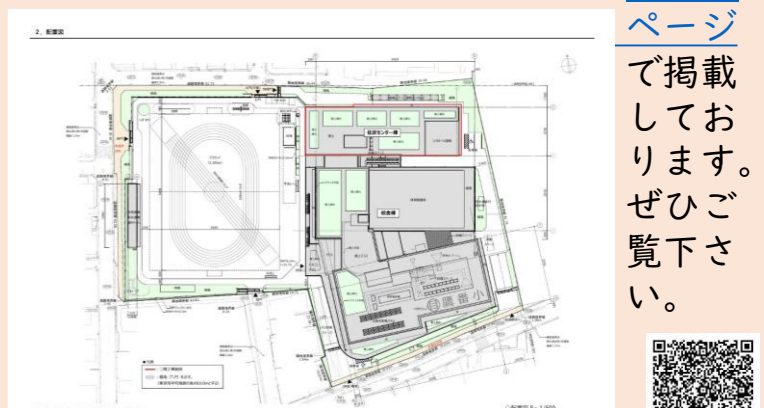


五本木も含め住区センターの多くは住宅街に立地し、用途の制限が厳しい。

## 続・鷹番小学校説明会

Vol.31に引き続き、8/21(木)も鷹番小学校の建て替えに関する基本設計素案説明会へ。出席者は地域の方々、保護者の方々が多分くらいずつという印象。出席された方々が新しい校舎についてイメージしやすいよう、模型なども展示していました。

後日の10/10(金)に開催された施設更新・公民連携等調査特別委員会では、実施設計案の報告。このタイミングで、8/21(木)の説明会への様々な意見や質問へのフィードバックも。実際の委員会資料は私の



ホームページで掲載しております。ぜひご覧ください。

